



## INDEX

P 1 ー代表挨拶

平成 23 年度  
通常総会報告

P 2 ーゆめっと京都高桑統轄より

平成 23 年度組織体制

P 3 ー第 6 回活動交流

ミーティングを開催

P 4 ー平成 23 年度

ゆめ企画  
について

3月11日の東日本大震災では、多くの方が亡くなり、身近な大切な人を亡くされ、家や学校、職場が失われました。その心の痛みは計り知れません。せめてその痛みを共有することができれば、と願ってやみません。そして、私は繋がることは痛みをも共有するというのを改めて認識しています。

被災されて九死に一生を得られたご夫婦のお話を伺う機会がありました。震災から数日後のことでしたが、集まったみなさんに、被災された時の状況や思い、避難生活のことを語ってくださり、心のうちにあるたくさんの思いをお聞きすることができました。そのお話を伺ったことで、死と向かい合うこと、生きるものの意味を深く考えさせられました。そして地震や津波の災害の大きさを改めて知りました。

避難場所で行われたレクリエーションプログラムのふとした時間に、ある子どもが家族を失ったことを突然話し出しました。そのとき、話題をかえて気持ちを逸らせるのがよいのか、話を聴くべきなのか、悩みます。

現地の状況は今なお復興への道は遠く、震災以前の日常に戻ることはもちろん不可能ですが、少しでも日常生活に近づけることが待ち望まれています。そんな中で自宅がない、生活基盤である仕事がない、というなかで大きな不安を感じている家族の気持ちを、子どもたちは小さいながらも、敏感に感じ取っています。子どもによっては、「がんばろう。がんばっている姿を見せてまわりの人を安心させよう」と多くのことをがまんしています。子どもは子どもの時代に、その時々に応じた喜びや悲しみをもつことが今後の生き方に大きな意味をもつものです。悲しい時つらい時に思いっきり泣くこと、作り笑いでなく心から笑うこと、ひとりではないと安心すること、未来に希望を持つことが大切です。

私たち自身に何ができるのか。私たちは痛みを同じくすることはできませんが、寄り添うことを「3年、5年、10年」と長く続けていくことが求められているのではないのでしょうか。

京都青少年ゆめネットワーク代表 神崎清一

## 平成 23 年度通常総会開催報告

さる5月15日(日)京都市中京区のコープ・イン・京都にて平成23年度通常総会が行われました。

総会は3部構成で行われ第1部では第1号議案から第4号議案までが諮られ、平成22年度の事業報告・決算、平成23年度事業計画・予算が全て承認されました。第2部では平成22年度ゆめ企画コンテスト助成金交付団体による企画発表が行われました。

第3部では交流懇親会が開かれ各団体からの出席者の交流を深める場となりました。

